

令和元年度刀根山支援学校第3回学校協議会議事録

日時 令和2年2月17日(月) 15:00～16:30

場所 本校 会議室

出席者(敬称略・50音順)

- 委員 井村 修 (奈良大学社会学部 教授)
齊藤 和雄 (独立行政法人国立病院機構大阪刀根山医療センター小児神経内科部)
高畠 俊英 (豊中市教育委員会児童生徒課 主幹)
中里 ましほ (大阪府立刀根山支援学校 PTA 代表)
山田 亨 (学校法人大阪滋慶学園 教育顧問)

1 校長挨拶

2 協議事項

学校の運営に関する基本的な方針について承認いただくとともに、具体的な取り組み計画・内容及び評価指標について、次のご意見・ご質問をいただいた。

1) 平成31年度 学校経営計画及び学校評価(案)について

委員からのご意見・ご質問

- 転入・転出のシステムについて、具体的にどのようなことが改善されたのか。
⇒システムつくる以前は入力する作業がかなりたくさんあった。たくさんの子どもの情報をひとつひとつ打ち込んでいると、やはりミスが起きる。そこで、入力フォームを一つにしたことで、ミスが起きにくくなった。さらに、ミスが起きたとしても、どこでミスが起きているかがわかりやすくなったというメリットもある。
- システムの改善によって教員の負担軽減にもつながっているのだから、働き方改革にも関係している。
- 「授業はわかりやすく楽しい」のところの評価について、肯定的評価は上がっており、取り組みもしている。分けて評価をすればどうか。
- 学校教育自己診断について、ざっくりとした文言では病院関係者は回答しにくいのではないか。もっとシンプルにするか、もっと細かくするか。そこを改善する必要がある。
- 冊子『筋ジスの理解と教育』についてだが、医療の分野は日々変わっていくので、2、3年毎に改訂していくことが望ましい。

2) 令和2年度 学校経営及び学校評価(案)について

委員からのご意見・ご質問

- 教科会を開くことはいいと思うが、それをどう評価していくのか。年に何回とか、数値目標を定めるなど、評価指標とマッチした表現にするとよい。

- いじめはどのようにして見つけるのか。見つけるのは担任なのか、何か仕組みがあるのか。
⇒病院との情報共有を密にして、アンテナを高く張ってはいる。見つけるのは担任とは限らない。いじめのアンケートなども実施している。早期発見・早期対応に努めたい。
- 災害に備えて訪問先に備蓄をしていくとあるが、どんなイメージなのか。保管する場所はどうするのか。
⇒病院にお願いしてスペースを借り、水などを置かせてもらうことを考えている。
- テレビ会議システムは、働き方改革にも関わるものである。働き方改革と関連させて書くと良いのではないか。

3 報告・連絡

(1)令和元年度 学校教育自己診断結果報告

病院関係者による評価について(報告)

- 子どもに寄り添ってくれるのはいいが、何でも教員がしてくれるというのは、子どもの成長にとってどうかという意見があった。
- 部署によっては、学校と病院の間で、子どもに対して互いのすべきことが整理されてないところもあり、厳しい意見をもらっているところもある。より良い関係を築いていけるようにしたい。

(2)令和元年度 授業アンケートについて

- 2点台は1項目のみで、ほとんどの項目で平均3以上をとれている。これはすごく高い数値を保っていると思う。

4 その他

次回の予定 第1回 令和2年 6月22日(月)

- 次年度に向けては、4月以降に更新の有無を聞いていただきたい。
- 設定曜日も、年度が替わってからの調整にしてほしい。